



Title	ウズベキスタンにおける高等教育の国際化と日本
Author(s)	宗野, ふもと; SONO, Fumoto
Citation	日本中央アジア学会報, 20, 83-84
Issue Date	2024-11-30
DOI	https://doi.org/10.14943/jacas.20.83
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/98898
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	journal article
File Information	JB20_015sono.pdf



ウズベキスタンにおける高等教育の国際化と日本

宗野 ふもと

本発表では、ウズベキスタンのサマルカンド市にあるシルクロード国際観光文化遺産大学(以下「シルクロード大学」と表記)を事例として、ウズベキスタンの高等教育機関における国際化と日本の位置づけを考察した。シルクロード大学は、2018年の上海協力機構青島サミットでのミルズィヨエフ大統領による呼びかけにより、加盟国間の教育分野における協力や観光分野における専門家養成を目的として設立された大学である。

ウズベキスタンの高等教育の国際化の目的は、カリモフ時代とミルズィヨエフ時代で異なる。カリモフ時代(1991～2016年)には、主な目的はエリート育成にあり、先進国の大学への若者の派遣や国外大学の分校設立が主な取り組みであった。2016年末にミルズィヨエフが大統領に就任して以降、高等教育の国際化は、教育の質向上を目的として推進されるようになった。2019年に発令された大統領令「ウズベキスタン共和国の高等教育制度を2030年までに発展させる構想に対する支援」では、単位互換制への移行、世界大学ランキング上位1000位へのランクイン、国際交流促進などの国際化の取り組みが高等教育の発展にとって重要だとみなされている。これを受けて、国内の大学では国際化の取り組みが急速に行われるようになった。

ウズベキスタンにおける高等教育の国際化とは、欧米発の教育システムを受け入れることであり、その進展や評価に注目が集まってきた。しかし、現在の国際化は、東南アジア、トルコ、中東、中国、ロシア及び中央アジア諸国など多くの国の影響や関係の中で進展している。以上を踏まえて、本発表では、①ウズベキスタンの高等教育機関の現場において国際化はいかに進められているか、②国際化において日本はどのような位置づけにあるのかという点を、インタビュー調査で得た情報を紹介したうえで考察をおこなった。

以下では、シルクロード大学における国際化の実態を、2019年の大統領令で言及された、単位互換制への移行、世界大学ランキング上位1000以内へのランクイン、国際交流促進に着目して紹介した。

単位互換制について、単位制へ移行途上である大学が多い中、シルクロード大学ではすでに単位制が導入されている。単位制導入の目的は、学生が専門や興味をより深め、留学しやすくすることにある。世界大学ランキングについて、授業の多くを英語で行うこと、教員に

論文や著書の出版を強く推奨すること、留学生や外国人教員を受け入れることで、国際化の点で高得点を獲得し順位を上げようとしている。国際交流促進について、外国人教員や留学生の受け入れ、学生への留学やインターン先の紹介、大学間協定の締結推進など多くの取り組みを行う。大学間協定について、2023年6月時点で、国外81大学と協定を結んでいる。最多はインドネシア、続いて中国、ロシア、トルコの大学である。

シルクロード大学は、英語での授業、単位制の導入などを行っていることから、欧米発の教育評価システムを重視していることがわかる。しかし、国際交流に目を向けると、上海協力機構加盟国やイスラーム圏との組織的人的交流が盛んに行われている。興味深いのは、中国の強い影響下にあるかと思いきや、実際には他の国々とも関係を構築し国際交流を進めている点である。

それでは、日本はシルクロード大学の国際化においてどのような位置づけにあるのか。非欧米圏、非上海協力機構加盟国、非イスラーム圏の日本だが、日本での留学経験を持つ現学長は、日本との協力関係構築を強く望んでいる。日本からの教員や学生の受け入れや組織間関係の形成は、シルクロード大学の重要な課題である。学生の間でも日本への留学や就労への関心は高まっているという。また、追加調査は必要だが、国外移住を考える人々の間では、日本で留学や就労した人は、ウズベキスタンに戻ったのちに成功しやすいという認識があることも見えてきた。とはいえ、日本との関係強化が順調に進んでいるとはいえない。ウズベキスタンに対する日本側の消極的姿勢や、両国では仕事の進め方が異なっているために計画が実現しにくいという問題を抱える。

本発表を通して、シルクロード大学は、欧米発の世界基準の教育システムへの適応を目指しつつ、中国などの上海協力機構加盟国との組織的人的交流や、インドネシアなどのイスラーム圏との交流を行い、多元的な国際化を推進していることが明らかとなった。日本は、シルクロード大学の国際化にとって重要な欧米圏、上海協力機構加盟国、イスラーム圏ではないが、学長の強い意向の下に交流が行われている。日本への期待は強いが、個人的な経験や意向が重要で組織的後押しは弱いという点が、現時点でのウズベキスタンの高等教育国際化におけるウズベキスタンと日本との関係形成の特徴であるといえよう。

(シルクロード国際観光文化遺産大学(現筑波大学人文社会系))